
コード・ネーム ヴレラ

天崎健一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コード・ネーム ヴレラ

【Nコード】

N7868F

【作者名】

天崎健一

【あらすじ】

第五中学校の3年2組、唐原楓。ごく普通のどこにでもいそうな中学生。彼女には、裏の顔があった。コード・ネームは『ヴレラ』。そして、彼女は彼女が、奴ら、と呼ぶ集団に命を狙われているのだ。この物語は、女子中学生と5人の護衛の男の話。

プロローグ

キンコン……

授業終了を知らせるチャイムが鳴った。
教師が、授業をやめ教科書を閉じる。

「3時間目からはアレだからな。精々、死なない様にがんばれよ」

この言葉に教室が騒然となる。
みんな知っているのだ。

次の3時間目に学校が血まみれになる事を。

「ヴレラ！」

そう言われて私は振り返った。

声が聞こえた教室の入り口には、5人の男性が立っている。

「うん、次の時間に奴らが来る」

「死ぬ気で護衛するから、お前は生きろ」

1番ごっつい男が言う。

「お前らも、生きておけ。そうじゃないと私が困る」

「そんなことは分かってるさ。君たちも、奴らに殺される事からは
逃れろよ」

男が教室内に呼びかけると、教室がより騒然となった。

「コードネーム ヴレラ、参る！」

学校での戦争が始まる。

戦場は教室

「奴らが来たぜ」

細身で背の高い男、コードネーム レムが廊下の窓を見ながら言う。

「みんな、殺されても私は責任は取れない。自分の身体は自分で守って！」

教室内に警告をする。

この動作にも、なれたものだ。

「楓、絶対殺されない…でね」

クラスメイトの一人が言う。

その子の目にはうっすらと涙が浮かんでいた。

「大丈夫、死なないから」

「本当に？」

「約束する」

私はそういうと、視線を男たちに向けた。

「ヴレラちゃん、今日も死なねえように頑張ろうや」

コードネーム ラフィンがトンファーを構えながら私に言ってきた。

「銃には一番気をつけろ。奴ら、今日は持つてゐてえだからよ」

次は、コードネーム ランが言ってくる。

「命だけは大切にしろ。俺の身を使ってでも」

いつも冷静沈着な、コードネーム セリルが静かに囁く。

「守護は徹底的にするから、俺らを信じろよ。ヴレラ」

セリルに続いてレムも言う。

最後に残ったのは、セラクの言葉だけだ。

「いくぜ、ヴレラ」

ごっつい体つきの男、コードネーム セラクの言葉で戦争は始まる。

「ヴレル、お前は俺の後ろにつけ！ レム・ラフィン・ランは俺の前を走り、できるだけやつらを殺せ！ セイルは、ヴラルの後ろを守れ！」

「おうよ！」

私の周りをセラクの指示通りにラフィンたちが囲む。

そして、奴らのところへ走って向かった。

「私を守るか、わが身を守るかは個人の判断に任せる。今日も、戦え！！！」

「承知！」

私の言葉に、男たちは走りながら返事をする。
自信と勇気に満ち溢れた顔で。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7868f/>

コード・ネーム ヴレラ

2010年12月10日22時15分発行